

## IT 積さんシリーズ(DN-4100 シリーズ)と SIGNALert Manager との連携例

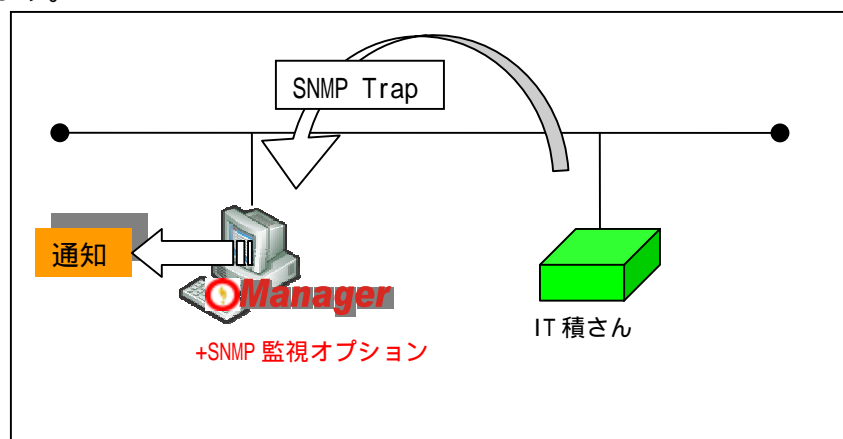
### 1 はじめに

本資料は SIGNALert Manager と IT 積さんシリーズ(DN-4100 シリーズ)の連携を行うための設定資料となります。

### 2 構成

IT 積さんでは、電流、電圧の上下限値のしきい値を設定し、設定値を超えた場合に、SNMP Trap を発行することが可能です。また、オプションにより温度、湿度についても同様に監視することが可能です。

今回は SIGNALert Manager にて SNMP Trap を検知し、エラー通知を行う連携例を示します。



本設定例では下記を前提に記載を行っています。

IT 積さん

IP アドレス : 172.16.39.85

SIGNALert Manager

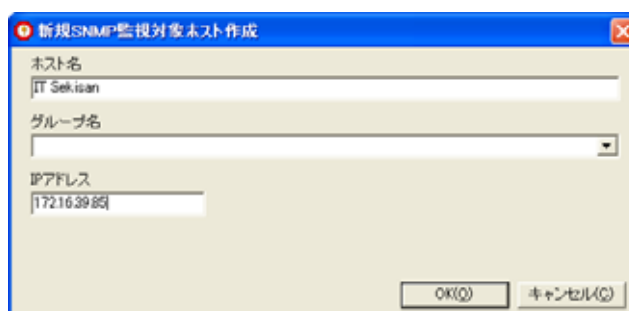
IP アドレス : 172.16.39.115

### 3 設定方法

#### 3.1 SIGNALert Manager への IT 積さんの登録

SIGNALert Manager にて本設定を行うためには、「SIGNALert Manager SNMP 監視オプション」が必要となります。[ファイル] [新規作成] [SNMP 監視]を選択し、監視対象機器を登録します。

設定パラメータ	設定値
ホスト名	ITSekisan
グループ名	省略
IP アドレス	172.16.39.85



#### 3.2 SNMP Trap の通知設定

IT 積さんのマニュアル等を参照し、IP アドレスの設定などネットワーク構成設定を行ってください。設定したアドレスにブラウザで接続するとログイン画面が表示されます。

設定パラメータ	設定値
接続アドレス	http://172.16.39.85/

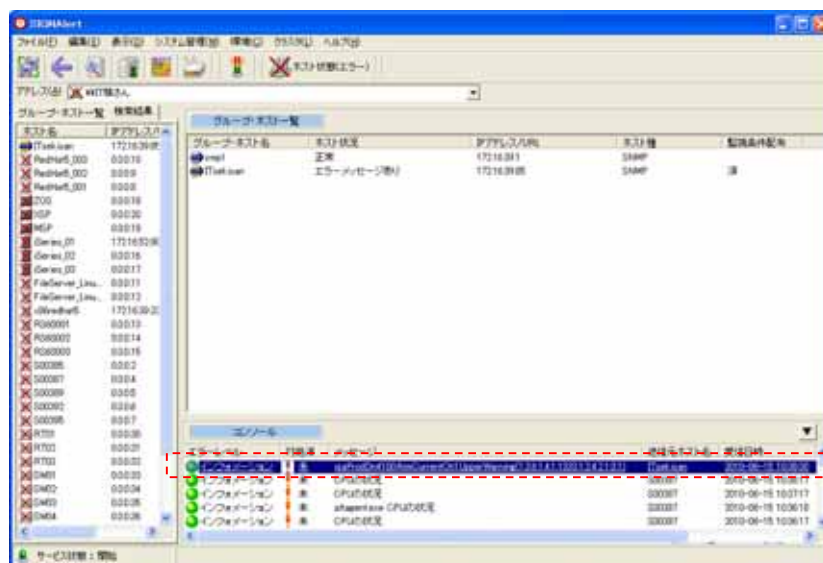


ログイン後、メニューより[基本設定] [SNMP 設定]を選択してください。  
SNMPトラップ通知先のIPアドレスに SIGNALert Manager のIPアドレスを設定します。

設定パラメータ	設定値
IP アドレス 1	172.16.39.115
トラップオフセット	0



[テスト実行]を押下します。設定が正しく行われている場合、SIGNALert Manager のコンソールに通知メッセージが表示されます。



### 3.3 しきい値設定

IT 積さんで通知を行うしきい値を設定します。下記の設定例は電圧値の設定例となります。(電流についても同様の設定方法となります。)

[計測測定] [アクション一覧/設定]を選択します。適当な ID (本設定例では ID1) の設定変更を選択します。SNMP Trap を送信する通知設定を行います。

設定パラメータ	設定例
ラベル	SIGNALert
snmptrap 送信	有効
その他の項目	未設定



[計測測定] [電力計測測定]を選択し、しきい値の設定を行います。「アクション No.」に先ほど登録した設定を選択します。

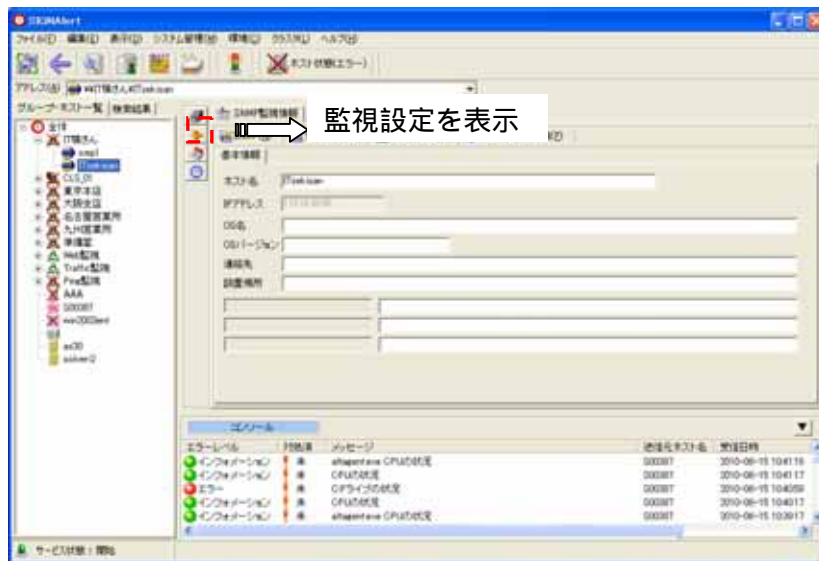
設定パラメータ			設定例
CH			1
計測			チェック有り
ラベル			電流計測
閾 値 設 定	上限値	判定	チェック有り
		注意値	5A
		警告値	10A
	下限値	判定	チェック有り
		注意値	2A
		警告値	1A
アクション No.			SIGNALert



### 3.4 SIGNALert の監視設定

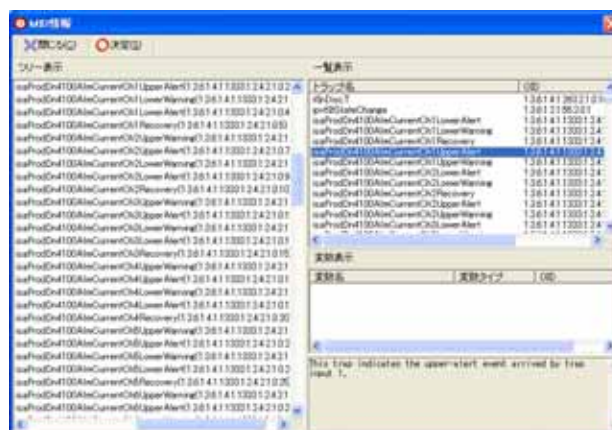
#### 3.4.1 Mib ファイルの読み込み

IT 積さんの mib ファイルをアイエスエイ社の HomePage よりダウンロードします。ダウンロード方法につきましては IT 積さんのマニュアルを参照してください。  
 [ファイル] [mib ファイル追加]を選択し、SNMP ファイルを読み込みます。  
 ITSekisan を選択し、監視設定を開きます



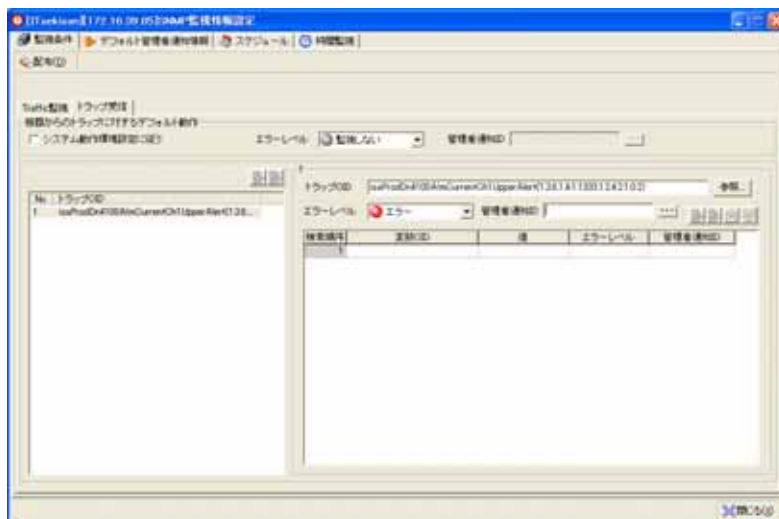
監視設定画面の「トラップ受信」タブを選択し、監視設定を表示させます。  
 トラップ OID の横の「参照」ボタンを押下します。監視したい OID を選択し、決定を押下します。本設定では CH1 の電流の警告値を設定していますが、他の項目値についても同様に設定します。

パラメータ	選択例
CH1 電流警告値	isaProdDn4100AlmCurrentCh1UpperAlert (1.3.6.1.4.1.1333.1.2.4.2.1.1.2)



Trap 通知時のエラーレベルを設定します。SIGNAlert ではエラーレベル毎にエラー通知方法を設定することが可能です。また、管理者通知 ID を設定すると、本通知のみで有効となるエラー通知方法も設定することも可能です。

設定パラメータ	設定例
トラップ OID	isaProdDn4100AlmCurrentCh1UpperAlert (mib 情報画面で登録した OID)
エラーレベル	エラー
その他の項目	未設定



設定完了後に、[配布]を押下します。以上で監視設定は完了となります。

## 4 連携時のメリット

### 4.1 エラー通知設定の一元管理

複数の IT 積さんが導入されている環境の場合、エラー通知方法の共有化を簡単に行うことができます。また、エラー通知を一時的に行わない設定を簡単に行うことができるため、メンテナンス時などの対応が容易になります。

### 4.2 対処状況・対処方法の一元管理

同一の OID で通知が来た場合、以前に対処方法を表示させることが可能となります。また、各エラー通知に対して、対処の有無を記録することも可能となるため、対処状況の管理が容易になります。

### 4.3 構成管理

監視対象をフォルダに分けて表示させることが可能となります。配置場所、配置ラックごとに管理することが可能となります。